

(3) 北関東



北関東地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、_ は下方に変更)

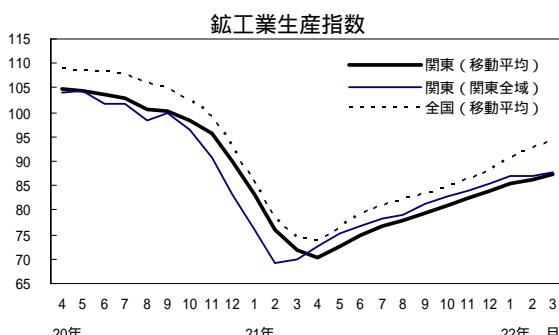
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年2月)	今回(平成22年5月)	
景況判断	持ち直しの動き	持ち直している	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直している	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。(関東全域)

輸送機械は、海外向けに普通トラック及び駆動伝導・操縦装置部品等で、増加している。化学は、化粧品やポリエチレンなどで、減少している。一般機械は、アジア向けに半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置などで、増加している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池及び蛍光ランプなどで、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。

2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

付加価値 ウェイト	生産			在庫 月期	
	10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期		
輸送機械	15.2	14.7	4.5	3.4	6.2
化学	13.4	0.7			
一般機械	13.2	19.3	12.4	10.8	3.1
電気機械	7.8	5.6	6.2	6.5	10.9
食料品・たばこ	7.1	0.1			
鉱工業	100.0	5.7	3.8	2.8	2.5

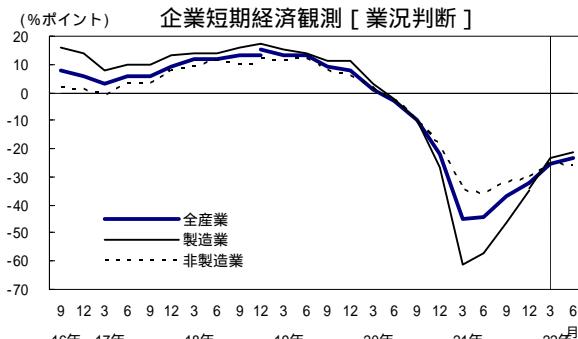
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

2. 1~3月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値

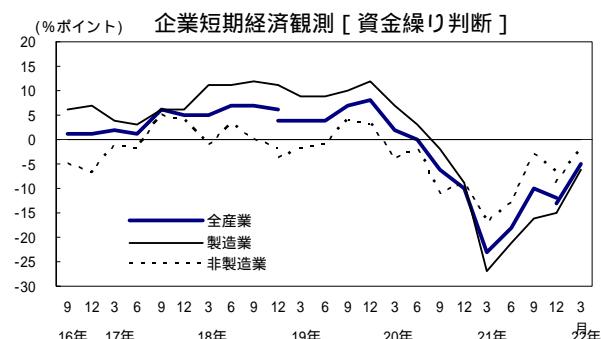
では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

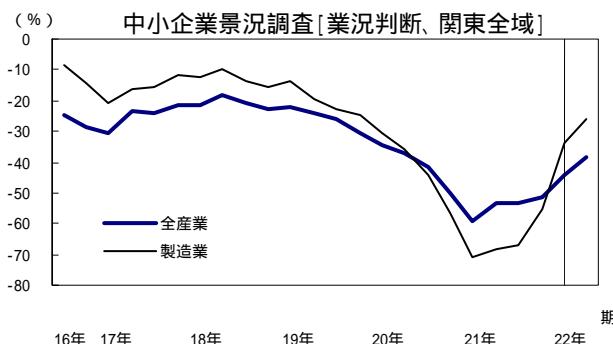
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。22年期は見通し。

景気ウォッチャー調査(3月)[企業動向関連(現状)]

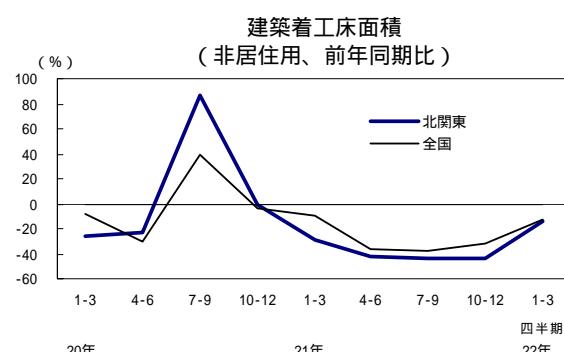
「全体的に仕事量が増えている。ようやく小企業まで仕事が回ってきた感じがするが、コスト的には相変わらず厳しい(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]		
	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度計画
全産業	31.4 (2.7)	19.8
製造業	37.2 (2.3)	44.9
非製造業	25.1 (3.1)	3.4

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

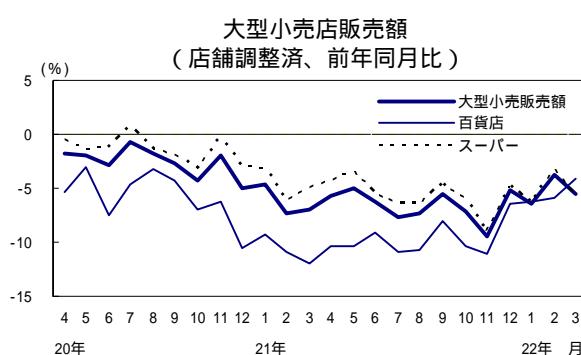
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、飲食料品で洋菓子や物産展の動きが好調であったものの、下旬の高温により冬物衣料が低調なことから、前年を下回った。2月は、ブランド品が低調だったものの、下旬の高温から春物衣料に動きがあったことから、前年比の減少幅が縮小した。3月は、下旬の低温から衣料品が振るわなかつたものの、ホワイトデーのギフト需要により飲食料品が好調だったことから、前年比の減少幅が引き続き縮小した。

スーパーは、価格強化策による単価の下落と消費者の買い控えから飲食料品が振るわなかつたものの、ひな祭りや彼岸関連の需要があったことから、前年同期比の減少幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「昨年夏からずっと売上の前年割れが続いてきたが、今月は少し下げ止まった感がある。ただ、景気回復によって景気が上向いたというよりは、消費者が際限なく節約し続けることが限界に達したせいで感じる(高級レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

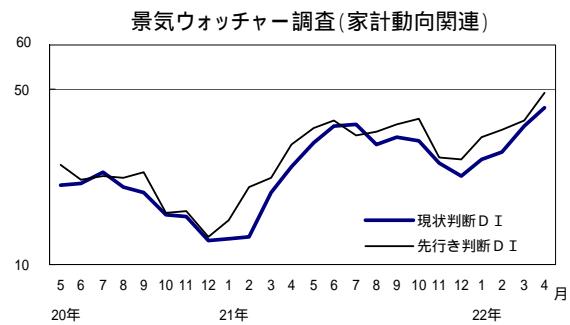
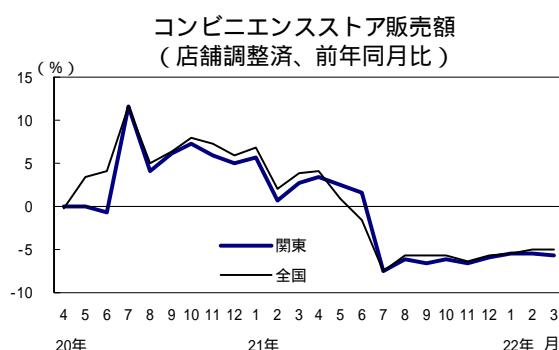


	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	5.7	6.8	7.1	5.3
百貨店	9.9	9.9	9.1	5.4
スーパー	4.4	5.9	6.5	5.3
乗用車	17.9	0.2	19.5	26.2
景気ウォッチャー	37.2	39.4	33.9	37.1

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。22年1-3月期は速報値。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

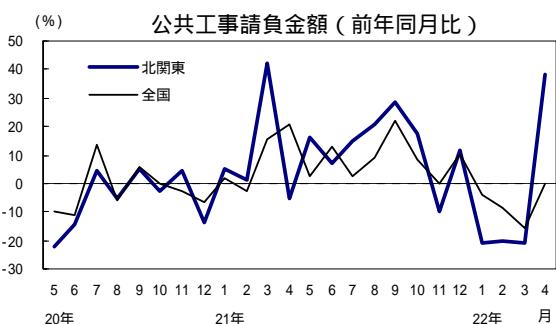
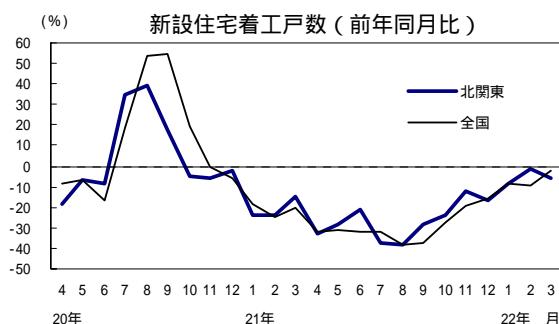
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は21年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

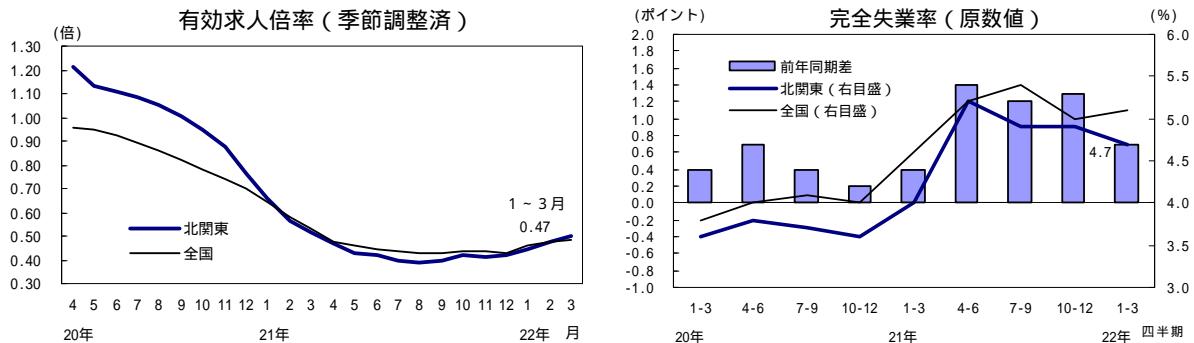


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



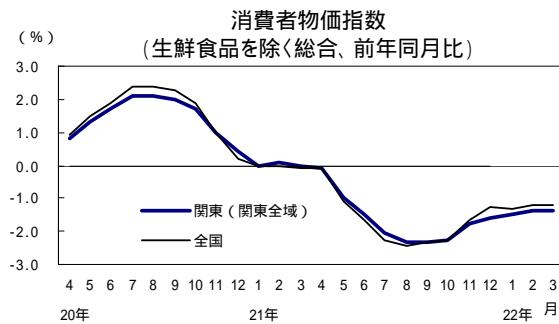
景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

「一部の製造業の仕事量は増えているが、それに伴う求人はほとんどない。医療福祉やサービス業、飲食業を中心に求人広告件数は3月より若干増えている(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産					
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数 (前年比)	231 6.9	182 14.6	216 7.7	208 24.6	70 23.9
負債総額 (前年比)	1,159 93.0	1,090 14.8	578 42.3	690 36.8	122 82.6



景気ウォッチャー調査 [合計(特徴的な判断理由)]

<現状> (4月)

- 4月の今までなかつた異常な寒気が観桜期間を長くしたため、思ったより多くの人出が続いている、助かっている(商店街)

<先行き> (4月)

- 上場企業の3月期決算が予想より好結果であったこと、メーカーの時間外勤務も増加傾向であることや子ども手当の支給等を考えれば、消費も多少は増える(スーパー)

